

#### 第4回常総市「道の駅」基本計画策定検討会議 議事要旨

平成30年12月20日に開催した第4回常総市「道の駅」基本計画策定検討会議での、主なご意見等を以下に示します。

- 道の駅で売上の高い「道の駅しもつけ」の収益構造を研究し、売上のある道の駅を目指すべきである。また、地域とのつながりのために市民組織を作ることは良いことだと考える。
- 道の駅における収益は、民間企業への指定管理の場合、テナントの規模や企業の戦略によって大きく変わってくるため、収支計画のシミュレーションをしておくとういと考えている。
- 道の駅の設計にあたり、県補助等の活用を検討しながら地域交流センター以上に思い切った建物でインパクトあるものを作ることもよいと考える。
- 江戸の町をコンセプトにした羽生PAは建物だけでも目を引くことから、圏央道から見ても目立つようなものにして集客を図ることも重要と考える。
- 道の駅はオープンした当初は賑わうが、時間が経つに集客力は徐々に落ちていくことから、アイデアを活かしてイベントを絡めた商品提供を行うなど、ソフト面の検討が必要と考える。
- 県内のある施設では「米の日」や「肉の日」といったイベントを設け、集客を図る仕掛けを取り入れている。また、お客様と生産者が直接触れ合える機会が多い方が売れ行きがよいと思うので、出荷者組織には地元生産者を多く取り入れる枠組を規定するとよいと考える。
- 道の駅に旅行業の資格を持った人を増やし、魅力を案内・発信しながら取り組むことが大切ではないか。また、五霞町で実践しているETC2.0の活用については、60分と時間は短い、常総市でも実施して欲しい。
- 供給体制と農地エリア等、複数の事業が絡むことから連携が見えないので、行政か民間が主体になるかは検討することが必要であるが、総合プロデュースが出来る人を配置した方がよいと考える。
- 道の駅と隣接する民間集客施設と相乗効果を図るという計画だが、民間にだけに任せるのではなく、市も民間側と協議・検討してほしい。